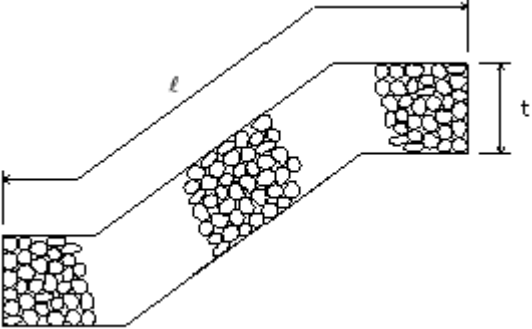
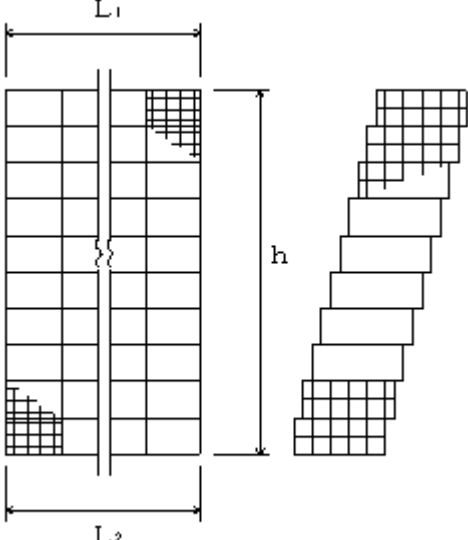
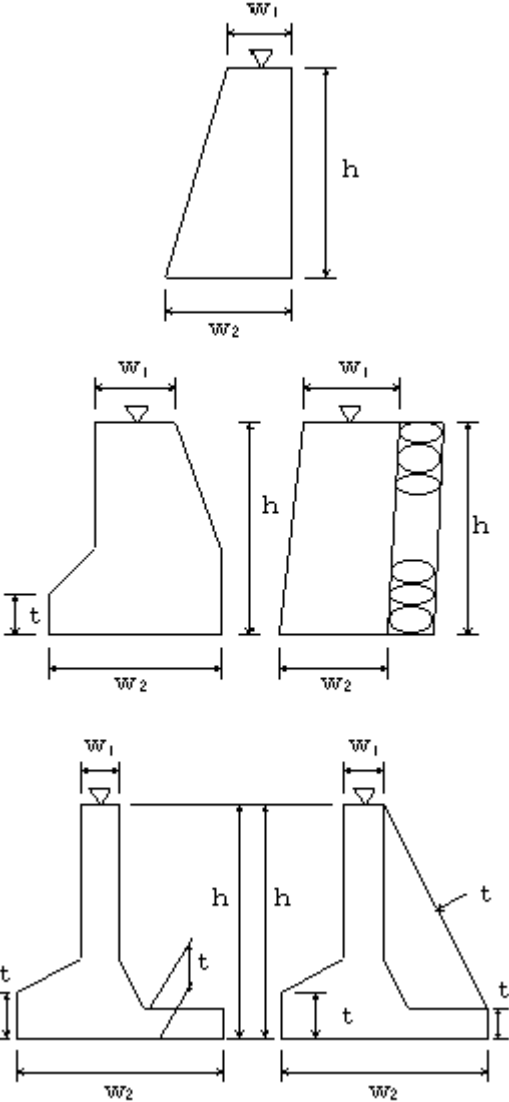
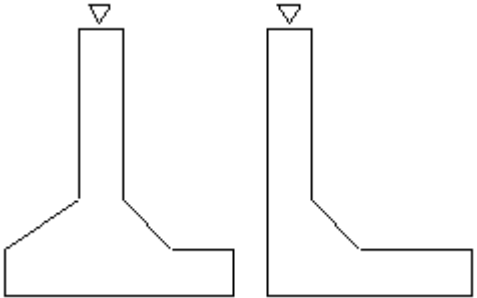


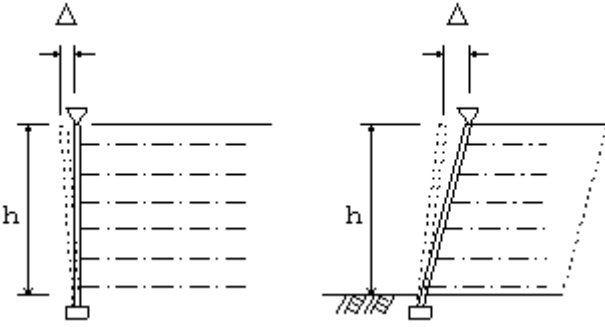
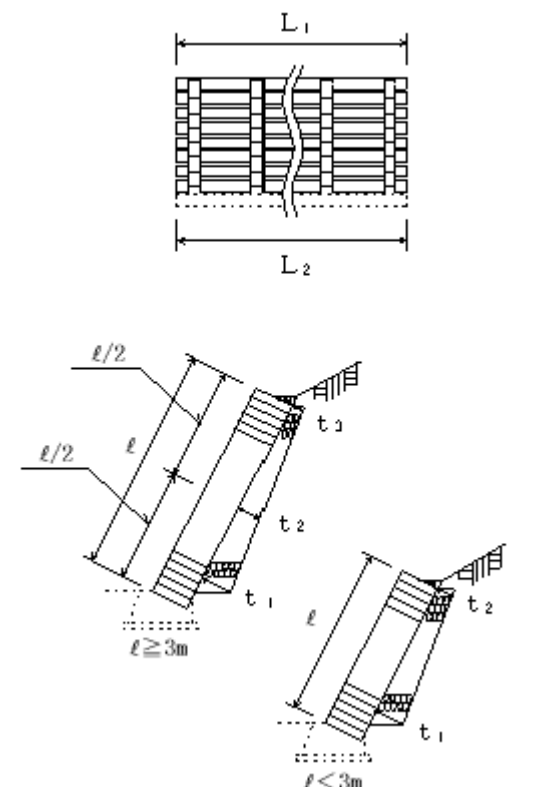
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2	1	遮音壁支柱製作工	部 材	部材長 $\square$ (m)	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	図面の寸法表示箇所で測定。		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2	2	遮音壁支柱製作工 (工場塗装工)				第 1 編 3-3-15 工場塗装工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	2		植生工				第 1 編 3-3-7 植生工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	3		法面吹付工 (コンクリート) (モルタル)				第 1 編 3-3-6 吹付工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	4		法枠工				第 1 編 3-3-5 法枠工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	5 6		アンカー工 プレキャスト法枠工	削孔深さ L		設計値以上	全数 (任意仮設は除く)		
						配置誤差 d		100			
						せん孔方向 θ		± 2.5 度			

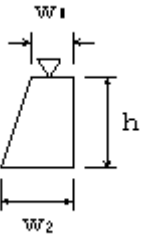
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	7	1	かご工 (じゃかご)	法長 $a < 3m$	-50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につ き 2 箇所。		
						法長 $L \geq 3m$	-100			
						厚 さ t	-50			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	7	2	かご工 (ふとんかご)	高 さ h	-100	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につ き 2 箇所。		
						延 長 L_1, L_2	-200	1 施工箇所毎		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	3		既製杭工			第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	4		場所打杭工			第 1 編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。		

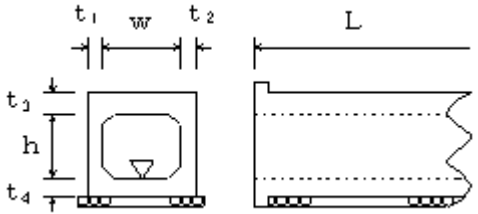
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	5		現場打擁壁工	基 準 高 ▽	±50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						厚 さ t	-20			
						裏 込 厚 さ	-50			
						幅 W1, W2	-30			
						高さ h h < 3m	-50			
						h ≥ 3m	-100			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	6		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ▽	±50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	7		補強土壁工	基 準 高 ▽	±50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						高 さ h	h<3m			
							h≥3m			
						鉛 直 度 △	±0.03hかつ±300 以内			
						控 え 長 さ	ジオブロック工法	設計値の長さに対し、 0~-100		
							ワイヤ-ウォール工法	製作の長さに対し、 -5~+25		
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	8		井桁ブロック工	基 準 高 ▽	±50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						法 長 h	h<3m			
							h≥3m			
						厚さt ₁ , t ₂ , t ₃	-50			
						延 長 L ₁ , L ₂	-200	1 施工箇所毎		

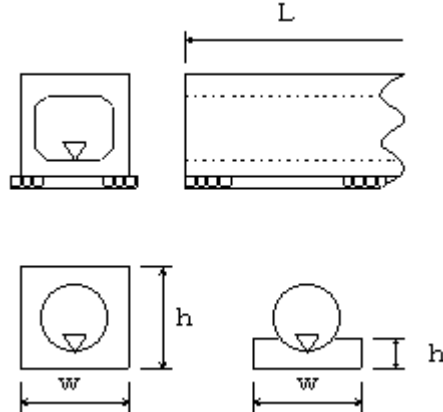
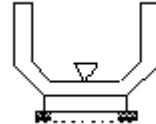
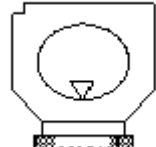
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

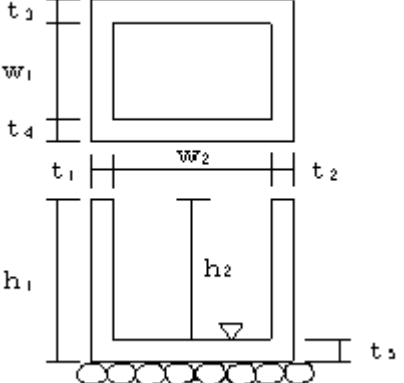
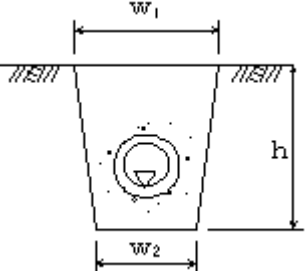
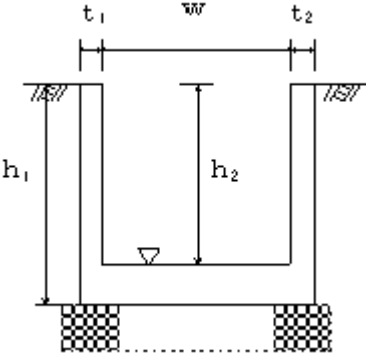
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	9		小型擁壁工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						幅 W1, W2	-30			
						高 さ h	-50			
						延 長 L	-200			
								1 施工箇所毎		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	10		土留・仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切り工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	6 石・ ブ ロ ッ ク 積 (張) 工	3		コンクリートブロック工			第 1 編 3-5-3 コンクリートブロック工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	6 石・ ブ ロ ッ ク 積 (張) 工	4		緑化ブロック工			第 1 編 3-5-4 緑化ブロック工に準ずる。		

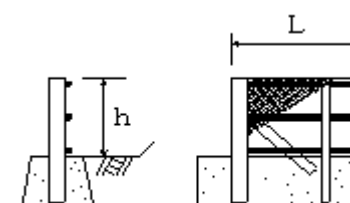
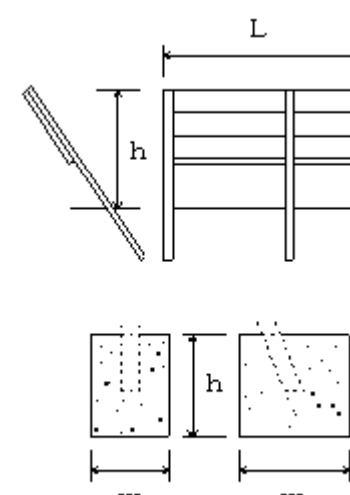
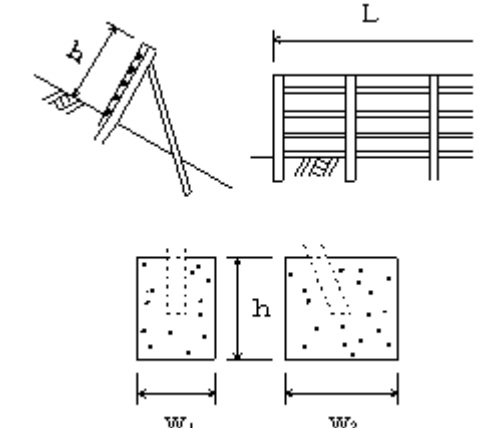
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	6 石・ブ ロ ッ ク 積 (張) 工	5		石積(張)工			第1編 3-5-5 石積(張)工に準ずる。			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	7 カ ル バ ー ト 工	6		現場打カルバト工	基 準 高 ▽	±30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。			
						厚さ t1~t4	-20				
						幅(内法) w	-30				
						高 さ h	±30				
						延 長	L<20m				-50
							L≥20m				-100

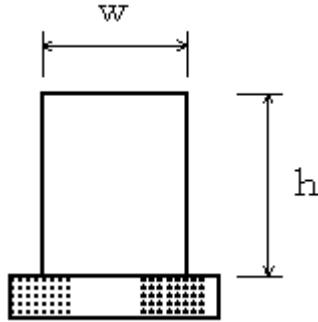
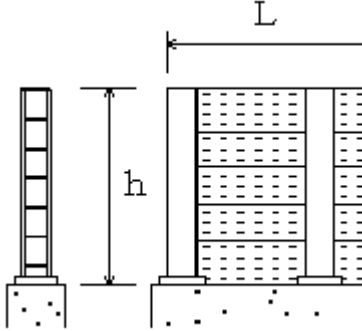
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	1 道 路 改 良	7 カ ル バ ー ト 工	7		プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施 工箇所につき 2 箇所。 ※印は、現場打のある場合。		
						※幅 w	-50			
						※高 さ h	-30	1 施工箇所毎		
						延 長 L	-200			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	7 カ ル バ ー ト 工	8		土留・仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	2		側溝工 (プレキャストU型側溝) (コルゲートフリューム) (自由勾配側溝)	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施 工箇所につき 2 箇所。		
						延 長 L	-200			
								1 施工箇所毎		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	3		管渠工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施 工箇所につき 2 箇所。		
						延 長 L	-200			
								1 施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	4		集水桝・マンホール工	基 準 高 ▽	±30	1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合		
						※厚さ t ₁ ～t ₅	-20			
						※幅 W ₁ , W ₂	-30			
						※高さ h ₁ , h ₂	-30			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	5		地下排水工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施 工箇所につき 2 箇所。		
						幅 W ₁ , W ₂	-50			
						深 さ h	-30			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	7		現場打 (組立) 水路工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施 工箇所につき 2 箇所。		
						厚 さ t ₁ , t ₂	-20			
						幅 W	-30			
						高さ h ₁ , h ₂	-30			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	4		落石防止網工	幅 W	-200	1 施工箇所毎		
						延 長 L	-200			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	5		落石防護柵工	高 さ h	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	6		防雪柵工	高 さ h	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎			
						基礎	幅 W ₁ , W ₂	-30			基礎 1 基毎
							高さ h	-30			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	7		雪崩予防柵工	高 さ h	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎			
						基礎	幅 W ₁ , W ₂	-30			基礎 1 基毎
							高 さ h	-30			
						アンカ-長	打 込 み	-10%			
							埋 込 み	-5%			

出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	10 遮 音 壁 工	4		既製杭工				第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	10 遮 音 壁 工	5		遮音壁基礎工	幅	w	-30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施 工箇所につき 2 箇所。			
						高	さ h	-30				
						延	長 L	-200	1 施工箇所毎			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	10 遮 音 壁 工	6		遮音壁本体工	支 柱	間	隔 w	±15	施工延長 5 スパンにつき 1 箇所		
							ず	れ a	10			
							倒	れ d	h (5/1000)			
						高		さ h	+30, -20			
						延		長 L	-200	1 施工箇所毎		

出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要			
							個々の測定値		10 個の測定値の平均 (X ₁₀)						
							(X)								
							中規模以上	小規模以下							
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	6	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	-	基準高は延長 20m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割に測定。	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。				
						厚 さ	-45		-15						
						幅	-50		-						
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	6	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。					
						幅	-50		-						
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	6	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000m ² に 1 個の割でコア-を採取もしくは掘り起こして測定。	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。				
						幅	-50		-						
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	6	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取して測定。	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。				
						幅	-50		-						
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	6	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取して測定。	コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。				
						幅	-25		-						
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	6	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² 毎に 1 個の割でコア-を採取して測定。	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。				
						幅	-25		-						
						平 坦 性	3mプロフィールメ-タ(σ)2.4mm 以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm 以下								
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	7	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	-	基準高は延長 20m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割に測定。	橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。				
						厚 さ	-45		-15						
						幅	-50		-						
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	7	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。					
						幅	-50		-						
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	7	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取もしくは掘り起こして測定。	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。				
						幅	-50		-						
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	7	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取して測定。					
						幅	-50		-						

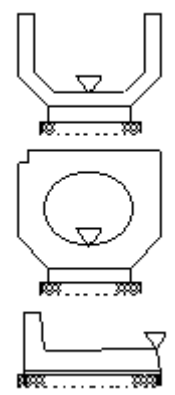
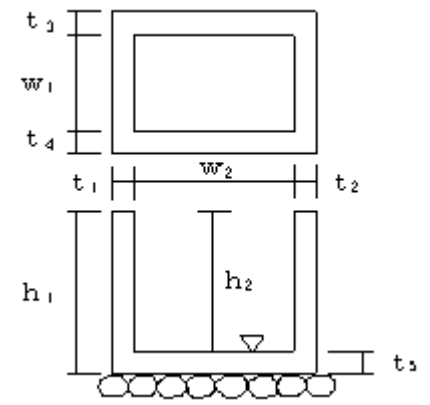
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

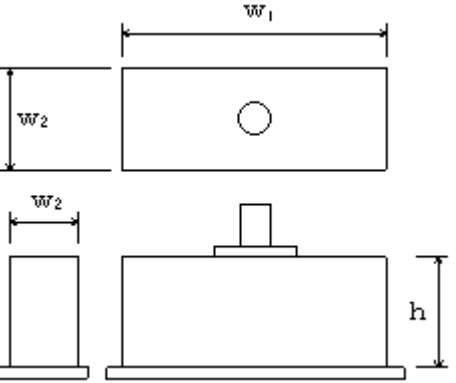
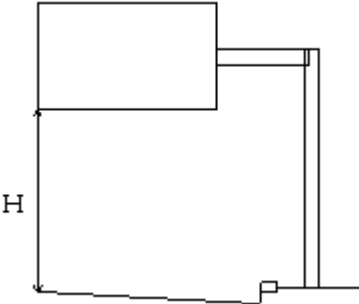
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上			
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取して測定。	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 m ² 未満。	
						幅	-25		-			
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² 毎に 1 個の割でコア-を採取して測定。	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-25		-			
						平 坦 性	3mプロフィールメ-タ-(σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下					
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	8	1	グ-スアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取して測定。		
						幅	-50		-			
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	8	2	グ-スアスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取して測定。	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 m ² 未満。	
						幅	-25		-			
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	8	3	グ-スアスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² 毎に 1 個の割でコア-を採取して測定。	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-25		-			
						平 坦 性	3mプロフィールメ-タ- (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下					
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	9		コンクリ-ト舗装工					第 1 編 3-6-6 コンクリ-ト舗装工に準ずる。		
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	10		薄層カラ-舗装工					第 1 編 3-6-7 薄層カラ-舗装工に準ずる。		
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	-	基準高は延長 20m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割に測定。	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚 さ	-45		-15			
						幅	-50		-			
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50		-			

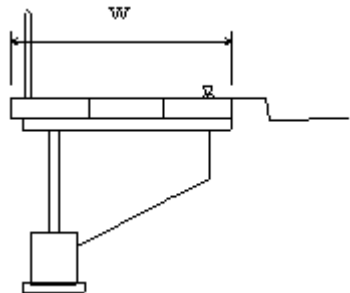
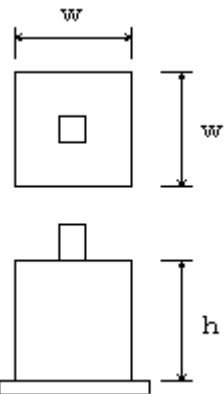
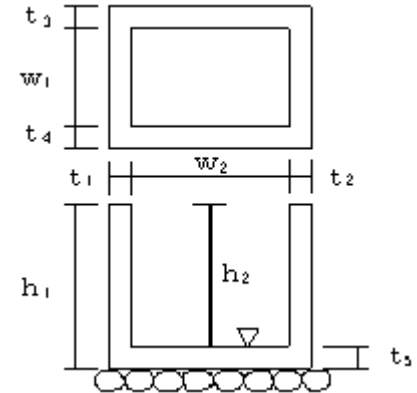
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上			
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	11	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取もしくは掘り起こして測定。	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 m ² 未満。	
						幅	-50		-			
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	11	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取して測定。	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50		-			
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	11	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコア-を採取して測定。	コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	-25		-			
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50		-	基準高は片側延長 20m毎に 1 箇所の割で測定。 厚さは、片側延長 200m毎に 1 箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 20m毎に 1 箇所測定。	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						厚 さ	t<15cm	-30	-10			
							t≥15cm	-45	-15			
						幅	-100		-			
6 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚 さ	-9		-3	幅は、片側延長 20m毎に 1 箇所の割で測定。厚さは、片側延長 200m毎に 1 箇所コア-を採取して測定。		
						幅	-25		-			

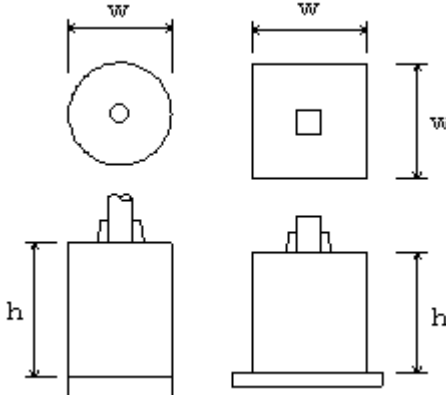
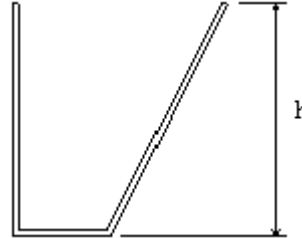
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

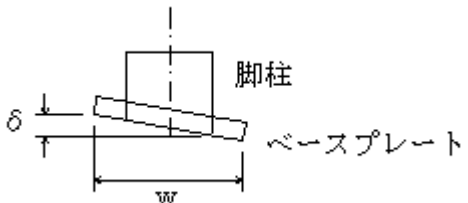
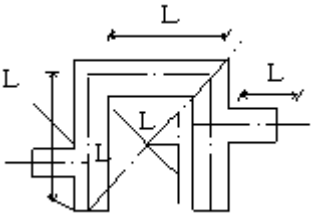
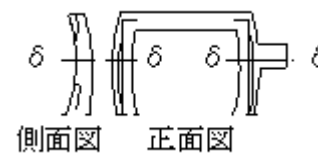
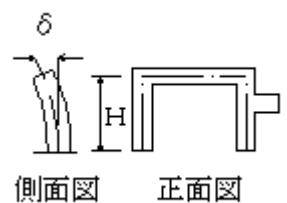
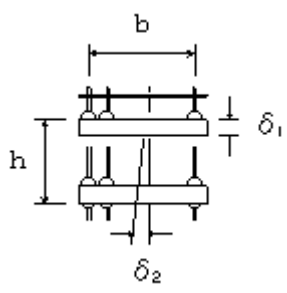
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	2 舗 装	4 路 面 排 水 工	2	3	側溝工 (L型街渠工) (LO型街渠工) (プレキャストU型側溝工) (管(函)渠型側溝工) 管渠工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						延 長 L	-200	1 箇所／1 施工箇所		
6 道 路 編	2 舗 装	4 路 面 排 水 工	4		街渠柵・マンホール工 (街渠柵工) (マンホール工)	基 準 高 ▽	±30	1 箇所／施工延長 20m ※は現場打部分のある場合		
						※厚さ t ₁ ～t ₅	-20			
						※幅 W ₁ , W ₂	-30			
						※高さ h ₁ , h ₂	-30			
6 道 路 編	2 舗 装	4 路 面 排 水 工	5		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						延 長 L	-200	1 箇所／1 施工箇所		
6 道 路 編	2 舗 装	5 防 護 柵 工	2		路側防護柵工			第 1 編 3-3-11 路側防護柵工に準ずる。		
6 道 路 編	2 舗 装	5 防 護 柵 工	3		防止柵工			第 1 編 3-3-10 防止柵工に準ずる。		
6 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	3		小型標識工			第 1 編 3-3-9 小型標識工に準ずる。		
6 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	4		土留・仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。		

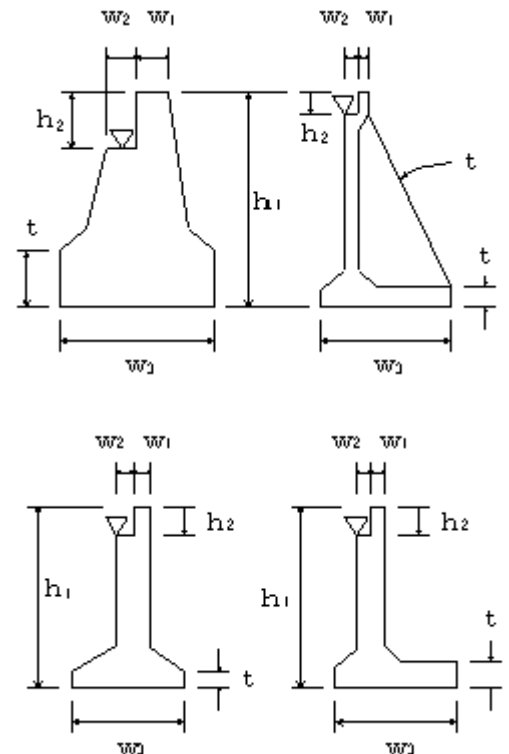
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	5	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 W_1, W_2	-30	基礎一基毎		
						高 さ h	-30			
6 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	5	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1 箇所／1 基		
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	3		区画線工			第 1 編 3-3-12 区画線工に準ずる。		
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	4		縁石工			第 1 編 3-3-8 縁石工に準ずる。		
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	7		道路付属物工			第 1 編 3-3-13 道路付属物工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	8		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	±20	1 箇所／1 踏掛版		
						各 部 の 厚 さ	±20	1 箇所／1 踏掛版		
						各 部 の 長 さ	±30	1 箇所／1 踏掛版		
					(ラバ-シュー)	各 部 の 長 さ	±20	全数		
						厚 さ				
					(アンカ-ボルト)	中心のずれ	±20	全数		
						アンカ-長	±20	全数		
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	9	1	組立歩道工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						幅 w	-30			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	9	2	組立歩道工 (支柱基礎工)	幅 w	-30	1 箇所／1 施工箇所		
						高 さ h	-30			
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	10	1	ケーブル配管工	基 準 高 ▽	±30	接続部間毎に 1 箇所		
						延 長 L	-200	接続部間毎で全数		
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	10	2	ケーブル配管工 (ハンドホル)	基 準 高 ▽	±30	1 箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合		
						※厚さ t ₁ ～t ₅	-20			
						※幅 w ₁ , w ₂	-30			
						※高さ h ₁ , h ₂	-30			

出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

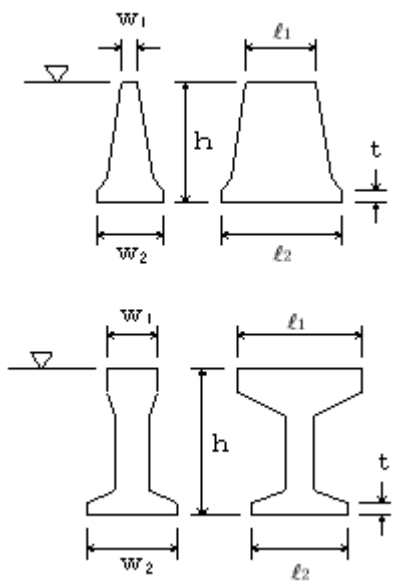
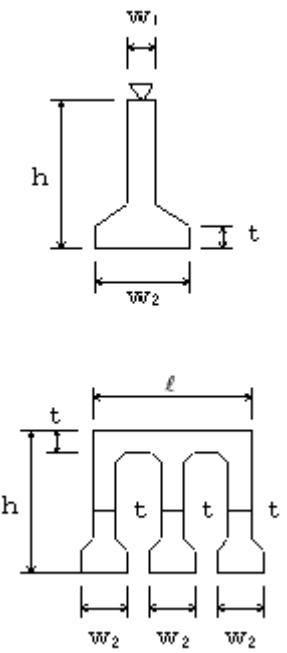
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	2 鋪 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	11		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1 箇所／1 施工箇所		
						高 さ h	-30			
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	2		刃口金物製作工	刃 口 高 さ h (m)	$\pm 2 \cdots \cdots h \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots 0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots 1.0 < h \leq 2.0$	図面の寸法表示箇所で測定。		
						外周長 L (m)	$\pm (10 + L/10)$			

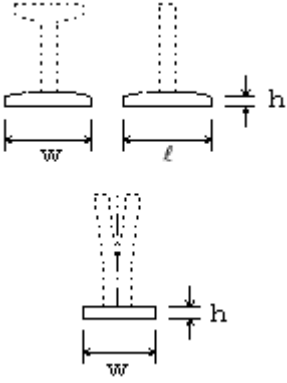
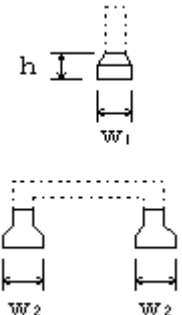
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	3		鋼製橋脚製作工	部 材	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)	w/500	各脚柱、ベースプレートを測定。		
							ベース プレート	孔の位置	±2	全数を測定。	
								孔の径	0~5	全数を測定。	
						仮 組 立 時	柱の中心間隔、 対角長 L (m)	$\pm 5 \cdots L \leq 10\text{m}$ $\pm 10 \cdots 10 < L \leq 20\text{m}$ $\pm (10 + (L-20)/10) \cdots 20\text{m} < L$	両端部及び片持ばり部を測定。		
							はりのキャンパ-及び柱の曲がり δ (mm)	L/1,000	各主構の各格点を測定。		
							柱の鉛直度 δ (mm)	$10 \cdots H \leq 10$ $H/1,000$ $\cdots H > 10$	各柱及び片持ばり部を測定。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	4		アンカ-フレ-ム製作工	仮 組 立 時	上 面 水 平 度 δ_1 (mm)	b/500	軸心上全数測定。		
							鉛 直 度 δ_2 (mm)	h/500			
							高さ h (mm)	±5			
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	5		仮設材製作工	部 材	部材長 L ₀ (m)	$\pm 3 \cdots$ $L_0 \leq 10$ $\pm 4 \cdots$ $L_0 > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	6		工場塗装工				第 1 編 3-3-15 工場塗装工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	3		既製杭工			第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	4		場所打杭工			第 1 編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	5		深礎工			第 1 編 3-4-6 深礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	6		オ-ブンケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-7 オ-ブンケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	7		ニュー-マチックケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-8 ニュー-マチックケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	8		躯体工	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						厚 さ t	-20			
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10			
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10			
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50			
						高 さ h_1	-50			
						胸壁の高さ h_2	-30			
						天 端 長 L_{D1}	-50			
						敷 長 L_{D2}	-50			
						胸壁間距離 L_D	±30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50			

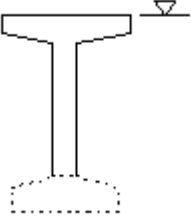
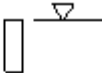
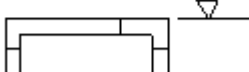
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	9		土留・仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	10		地中連続壁工 (壁式)			第 1 編 3-10-8 地中連続壁工 (壁式) に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	11		地中連続壁工 (柱列式)			第 1 編 3-10-9 地中連続壁工 (柱列式) に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	3		既製杭工			第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	4		場所打杭工			第 1 編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	5		深礎工			第 1 編 3-4-6 深礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	6		オープンケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-7 オ-ブンケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	7		ニューマチックケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-8 ニュ-マチックケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	8		鋼管井筒基礎工			第 1 編 3-4-9 鋼管井筒基礎工に準ずる。		

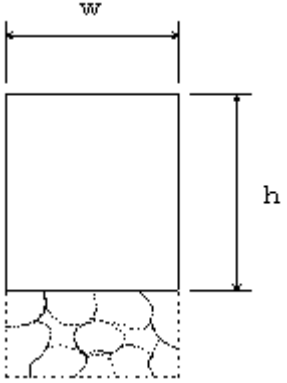
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	9	1	RC躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						厚 さ t	-20			
						天 端 幅 W_1 (橋軸方向)	-20			
						敷 幅 W_2 (橋軸方向)	-50			
						高 さ h	-50			
						天 端 長 L_{D1}	-50			
						敷 長 L_{D2}	-50			
						橋脚中心間距離 L_D	±30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50			
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	9	2	RC躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						厚 さ t	-20			
						天 端 幅 W_1	-20			
						敷 幅 W_2	-20			
						高 さ h	-50			
						長 さ L_D	-20			
						橋脚中心間距離 L_D	±30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50			
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	10		土留・仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	3		既製杭工			第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	4		場所打杭工			第 1 編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	5		深礎工			第 1 編 3-4-6 深礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	6		オ-ブンケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-7 オ-ブンケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	7		ニュー-マチックケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-8 ニュー-マチックケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	8		鋼管井筒基礎工			第 1 編 3-4-9 鋼管井筒基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	9	1	橋脚フ-チング工 (I型・T型)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅 w (橋軸方向)	-50			
						高 さ h	-50			
						長 さ L _D	-50			
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フ-チング工 (門型)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅 w ₁ , w ₂	-50			
						高 さ h	-50			

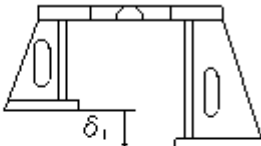
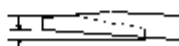
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

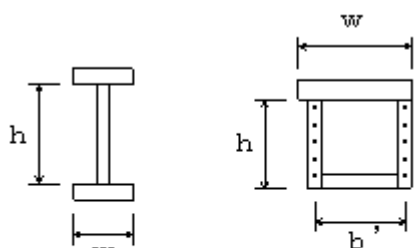
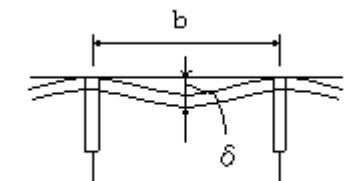
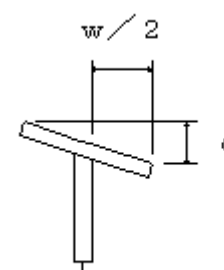
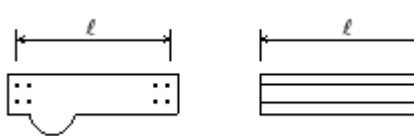
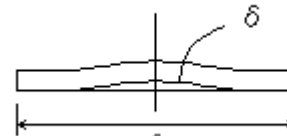
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						橋脚中心間距離 L ₀	±30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50			
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	 	
						橋脚中心間距離 L ₀	±30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50			
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の 1/2 を測定。 ※は耐候性鋼材 (裸使用) の場合		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	12		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の 90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定する。 1 ロットの大きさは 500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	13		土留・仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	3 4		笠コンクリート工 法留基礎工			第 1 編 3-4-3 法留基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	5		矢板工			第 1 編 3-3-4 矢板工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	6		コンクリートブロック工			第 1 編 3-5-3 コンクリートブロック工に準ずる。		

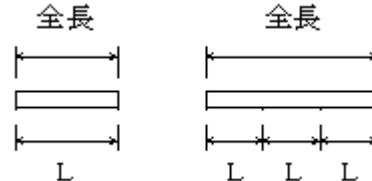
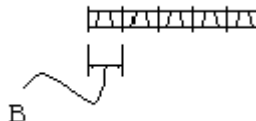
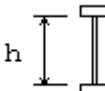
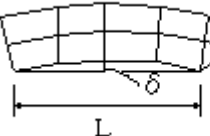
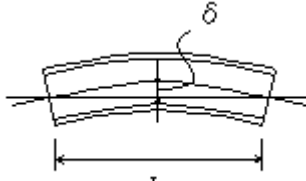
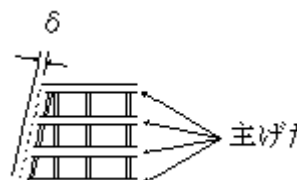
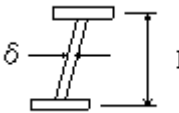
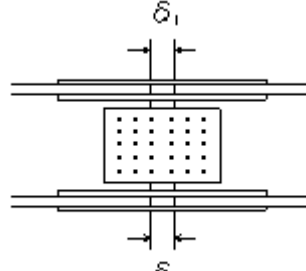
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

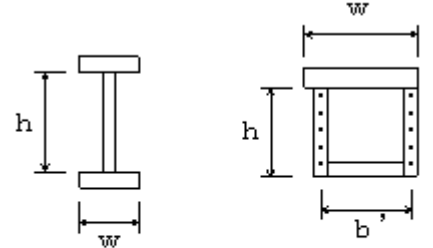
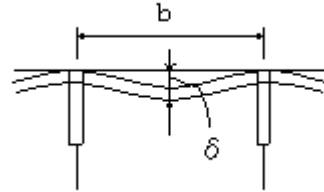
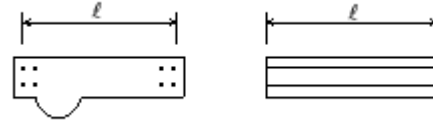
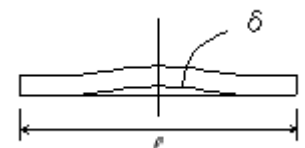
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	7		護岸付属物工	幅 w		-30	各格子間の中央部 1 箇所を測定。		
						高 さ h		-30			
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	8		石張り・石積み工				第 1 編 3-5-5 石積 (張) 工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	9		法枠工				第 1 編 3-3-5 法枠工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	10		植生工				第 1 編 3-3-7 植生工に準ずる。		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	11		覆土工				第 1 編 4-3-5 整形仕上げ工に準ずる。		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	3	1	桁製作工				第 1 編 3-3-14-1 桁製作工に準ずる。		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	3	2	桁製作工 (仮組立による検査を省略する 場合)				第 1 編 3-3-14-2 桁製作工 (仮組立による検査を省略する場合) に準ずる。		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	4		検査路製作工	部 材	部材長;L (m)		図面の寸法表示箇所で測定。		
								$\pm 3 \cdots \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots L > 10$			

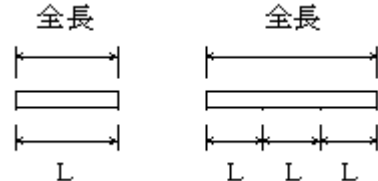
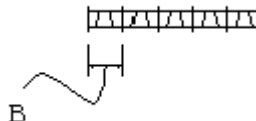
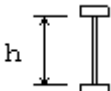
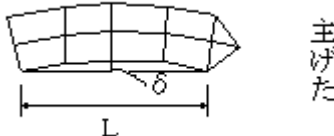
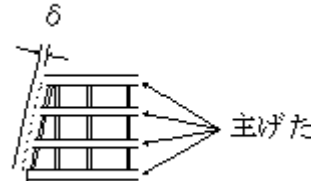
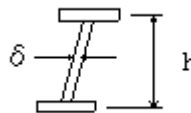
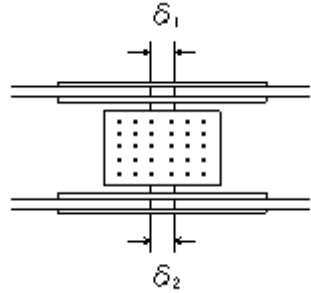
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	5		鋼製伸縮継手製作工	部 材	部材長w (m)	-5～+10… $w \leq 10$ -5～+ (5+w/2) … $w > 10$	製品全数を測定。		
						仮 組 立 時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ_1 (mm)	設 計 値 ± 4	両端及び中央部付近を測定。	 (実測値) δ_2 	
							フィンガ-の食い違い δ_2 (mm)	± 2			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	6		鋼製耐震連結装置製作工	部材	部材長 L (m)	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	図面の寸法表示箇所 で測定。		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	7		鋼製排水管製作工	部材	部材長 L (m)	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	図面の寸法表示箇所 で測定。		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	8		橋梁用防護柵製作工	部材	部材長 L (m)	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	図面の寸法表示箇所 で測定。		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長 L (m)	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	図面の寸法表示箇所 で測定。		

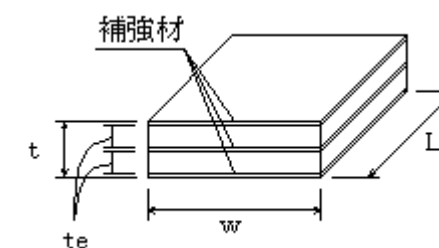
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘要		
									プレートガ-タ-	トラス・ア-チ等				
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	10	1	横断歩道橋製作工	部 材 精 度			主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型プレート ガ-ター トラス弦材			
								床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。					
							板 の 平 面 度 δ (mm)	プレートガ-タ-及びトラス等の部材の腹板	$h/250$	主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。			
								箱桁及びトラス等のフランジ 鋼床版のデッキプレート	$b/150$					
								フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$					
							部 材 長 L (m)	プレートガ-タ-	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。				
								トラス、ア-チ など	$\pm 2 \cdots L \leq 10$ $\pm 3 \cdots L > 10$					
								圧縮材の曲がり δ (mm)	$L/1000$		主要部材全数を測定。			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘要	
								プレートガ-タ-	トラス・ア-チ等			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	10	1	横断歩道橋製作工	仮組立精度	全長、支間長L (m)	$\pm(10+L/10)$	主桁、主構全数を測定。			
							主桁、主構の中心間距離B (m)	$\pm 4 \cdots \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \cdots \cdots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。			
							主構の組立高さh (m)	$\pm 5 \cdots \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \cdots \cdots h > 5$	-	両端部及び中心部を測定。		
							主桁、主構の通りδ (mm)	$5+L/5 \cdots \cdots$ $L \leq 100$ $25 \cdots \cdots L > 100$	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。		 主げた	
							主桁、主構のそりδ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots \cdots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots \cdots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots \cdots 80 < L \leq 200$	各主桁について 10～12m間隔を測定。	各主構の各格点を測定。		
							主桁、主構の橋端における出入差δ (mm)	10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。		 主げた	
							主桁、主構の鉛直度δ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。	支点及び支間中央付近を測定。		
							現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の 1／2 を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合			

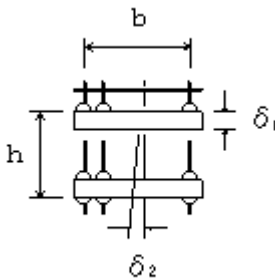
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘要	
								プレートガ-タ-	トラス・ア-チ等			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	10	2	横断歩道橋製作工 (仮組立による検査を省略する場合)	フランジ幅w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)2.0 < w$	主桁、主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型プレート ガ-ター トラス弦材		
								床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。			
						板 の 平 面 度 δ (mm)	プレートガ-タ-及びトラス等の部材の腹板	$h/250$	主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		
							箱桁等の及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$				
							フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$				
						部 材 長 L (m)	プレートガ-タ-	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。			
							トラス、ア-チ など	$\pm 2 \cdots L \leq 10$ $\pm 3 \cdots L > 10$				
							伸縮継手	$-5 \sim +10 \cdots L \leq 10$ $-5 \sim +(5+w/2) \cdots L > 10$				
								圧縮材の曲がり δ (mm)	$L/1000$		主要部材全数を測定。	

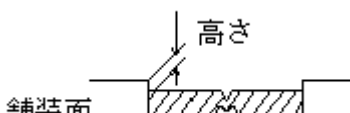
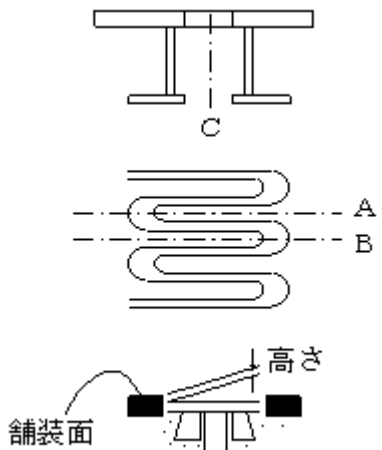
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘要	
								プレートガ-タ-	トラス・ア-チ等			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	10	2	横断歩道橋製作工 (仮組立による検査を省略する場合)	組 立 精 度	全長、支間長L (m)	$\pm(10+L/10)$	主桁、主構全数を測定。			
							主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \cdots \cdots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。			
							主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \cdots \cdots h > 5$	-	両端部及び中心部を測定。		
							主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \cdots \cdots L \leq 100$ $25 \cdots \cdots L > 100$	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。			
							架設完了キャンバ- δ (mm)	$L \leq 40 \cdots \cdots \pm 25\text{mm}$ $L > 40 \cdots \cdots \pm \{25+(L-40)\}$				
							主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。			
							主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。	支点及び支間中央付近を測定。		
							現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合			
	平面对角線長 δ (mm)	δ ≤15mm										

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	11	1	鑄造費 (金属支承工)	上下部構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差		+2 -0	製品全数を測定。		
							中心距離	≦1000mm	±1			
								>1000mm	±1.5			
						アンカ-ボルト孔	孔の直径	≦100mm	+3 -1			
								>100mm	+4 -2			
							孔の中心距離		JIS B 0412 並級			
						センター-ボス	ボスの直径		+0 -1			
							ボスの高さ		+1 -0			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	11	1	鑄造費 (金属支承工)	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法		JIS B 0412 中級	製品全数を測定。			
						全移動量	L≦300mm					±2
							L>300mm					±L≦100
						組立絶対高さ(H)	上、下面加工仕上げ					±3
							コンクリート構造用	h≦300mm				±3
								h>300mm				(h/200+3)小数点以下切り捨て
						普通寸法	鑄放し長さ寸法					JIS B 0412 並級
							鑄放し肉厚寸法					JIS B 0412 並級
							鑄放し加工寸法					JIS B 0405 並級
						6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工				11
長さL	500<w,L,D≦1500mm		0～+1%									
直径D	1500<w,L,D		0～+15									
厚さt	t≦20mm		0～+1									
	20<t≦160		0～+5%									
	160<t		0～+8									
平面度		±1										
平行度	te≦16		±1									
	te>16		10%									

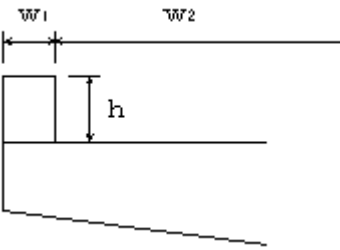
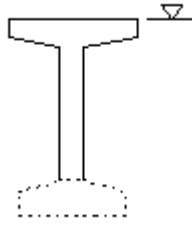


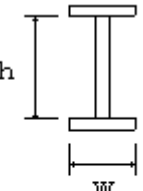
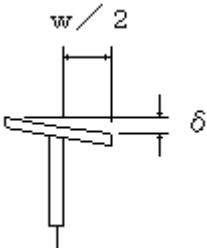
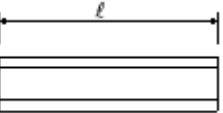
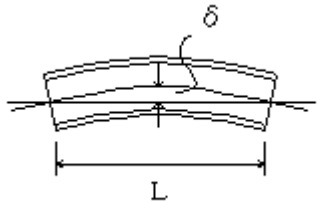
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

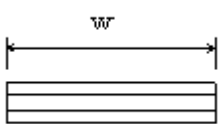
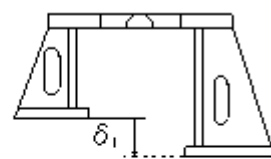
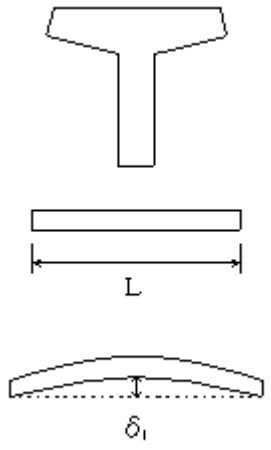
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	12		アンカー・フレーム製作工	仮組立時	上面水平度 δ_1 (mm)	$b/500$	軸心上全数測定。		
							鉛直度 δ_2 (mm)	$h/500$			
							高さ h (mm)	± 5			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	13		仮設材製作工	部材	部材長 L (m)	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	図面の寸法表示箇所で測定。		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	14		工場塗装工	塗 膜 厚		a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の 90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	工場塗装終了時に測定。ただし、工場で上塗りまで塗装する場合は、下塗り終了時と上塗り終了時に測定。なお、鋼橋塗装便覧にいうC塗装系の場合は、無機ジンクリッチペイントの塗布後にも測定。 1 ロットの大きさは、500 m ² とする。 1 ロット当たり測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	4 鋼 橋 架 設 工	4 5 6 7 8 9		架設工 (クレーン架設) (ケ-ブルクレーン架設) (ケ-ブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラペラ-クレーン架設)	全 長・支 間	-	各桁毎に全数測定。			
						桁・トラスの中心間距離	-	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。			
						そ り	$L \leq 40\text{m} \pm 25$ $L > 40\text{m} \pm \{25 + (L-40)\}$	主桁、主構を全数測定。			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	4 鋼 橋 架 設 工	10		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1 、 δ_2 (mm)	5 ※ ± 5	主桁、主構の全継手数の 1/2 を測定。 ※は耐候性鋼材 (裸使用) の場合			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 橋 梁 現 場 塗 工	3		現場塗装工	塗 膜 厚		a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の 90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは 500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	6 床 版 工	2		床版工	基 準 高 ▽	±20	基準高は、1 径間当たり 2 箇所 (支点付近) で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10 m ² に 1 箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)			
						厚 さ t	+20~-10				
						幅 w	±30				
						鉄筋の有効高さ	±10	1 径間当たり 3 断面 (両端及び中央) 測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。			
						鉄筋のかぶり	設計値以上				
						鉄 筋 間 隔	±20 +10 (有効高さがマイナスの場合)	1 径間当たり 3 箇所 (両端及び中央) 測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2mの範囲を測定。			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	7 支 承 工	2	1	支承工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ	±5	支承全数を測定。 B: 支承中心間隔 (m)			
						可動支承の橋軸 方 向 の ず れ	±10				
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	4+0.5× (B-2)				
						下沓の水平度	橋 軸 方 向				1／100
							橋軸直角方向				1／100
						同一支承線上の可動支承のずれの相 対誤差	±5				
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	7 支 承 工	2	2	支承工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ	±5	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。			
						支承中心間隔	+10				
						支承の水平度	橋 軸 方 向				1／300 以下、 5mm 以下
							橋軸直角方向				
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	2	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	舗装面に対し 0~-2	両端及び中央部付近を測定。			
						表 面 の 凹 凸	3				
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0~-2				
6 道 路 編	4 鋼 橋 上	8 橋 梁 付 属 物 工	2	2	伸縮装置工 (鋼フィンガ-ジョイント)	高 さ	据 付 け 高 さ	±3	高さについては車道端部、中央部各 3 点計 9 点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計 3 点。		
							車線方向各点誤差の相対差	3			
						表 面 の 凹 凸		3			
						歯型板面の歯咬み合い部の高低差		2			
						縦 方 向 間 隔		±2			
						横 方 向 間 隔		±5			
						仕 上 げ 高 さ		舗装面に対し 0~-2			

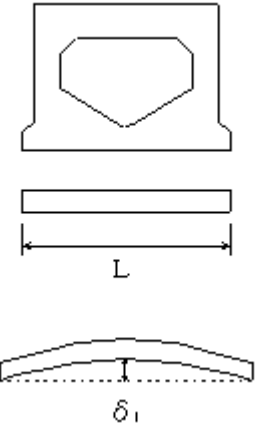
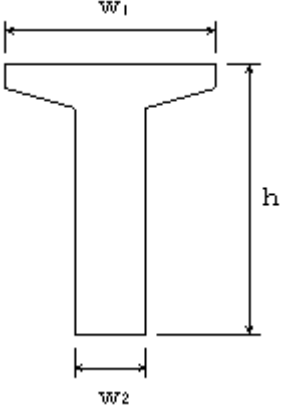
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

					工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所		摘要
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 w_1		+20~-10	1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所測定。			
						地覆の高さ h		+20~-10				
						有効幅員 w_2		+30~0				
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅		+10~-5	1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所測定。			
						高 さ		±10				
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	8		検査路工	幅		±3	1 ブロックを抽出して測定。			
						高 さ		±4				
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	3		既製杭工				第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	4		場所打杭工				第 1 編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。			
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	5		橋脚フーチング工 (I型) (T型)	基 準 高		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。			
						フーチング幅 w (橋軸方向)		-50				
						フーチングの高さ h		-50				
						フーチング長 dL		-50				
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	6		歩道橋架設工	全 長・支 間		-	各桁毎に全数測定。			
						桁・トラスの 中心間距離		-	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。			
						そ り		$L \leq 40m \cdots \pm 25$ $L > 40m \cdots$ $\pm \{25 + (L-40)\}$	主桁を全数測定。			

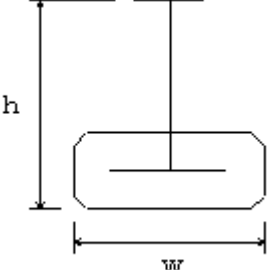
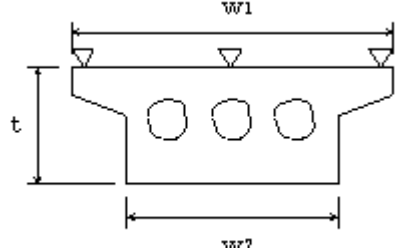
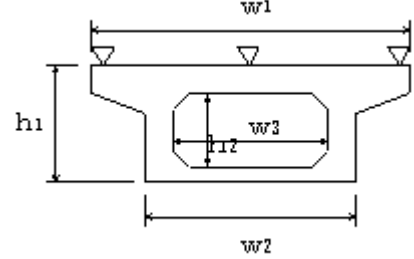
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	7		現場塗装工 (歩道橋)	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の 90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは 500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
6 道 路 編	5 コン クリ ート 橋 上 部 工	3 工場 製作 工	2		プレビ-ム用桁製作工	部 材	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots 2.0 < w$	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型プレート ガーター
							フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$	各支点及び各支間中央付近を測定。	
							部材長 L (m)	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。	
						仮 組 立 時	主 桁 の そ り	$-5 \sim +5$ $\cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\cdots 20 < L \leq 40$	各主桁について 10～12m 間隔を測定。	
6 道 路 編	5 コン クリ ート 橋 上 部 工	3 工場 製作 工	3		橋梁用防護柵製作工	部 材 長 L (m)	$\pm 3 \cdots L \leq 10$ $\pm 4 \cdots L > 10$	図面の寸法表示箇所で測定。		

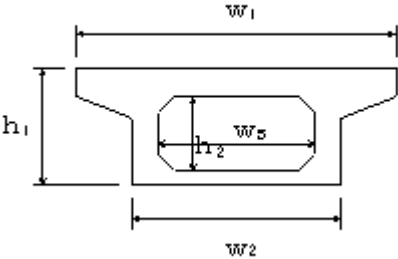
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	3 工 場 製 作 工	4		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (m)	-5～+10… $w \leq 10$ -5～+ (5+w/2) … $w > 10$	製品全数を測定。		
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ_1 (mm)	設 計 値 ±4	両端及び中央部付近を測定。		
							フィンガ-の食い違い δ_2 (mm)	±2			
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	3 工 場 製 作 工	5		工場塗装工				第 1 編 3-3-15 工場塗装工に準ずる。		
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	2	1	プレテンション桁購入工 (けた橋)	桁長 L (mm)		±L／1000	桁全数について測定する橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は JIS 認定工場の成績表に代えることができる。 JIS 製品以外は JIS 製品に準ずる。		
						断面の外形寸法 (mm)		±5			
						橋 桁 の そ り δ_1 (mm)		±8			
						横方向の曲がり δ_2 (mm)		±10			

出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

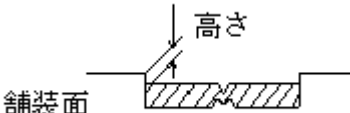
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	2	2	プレテンション桁購入工 (スラブ橋)	桁長 L (mm)	$\pm 10 \cdots L \leq 10\text{m}$ $\pm L/1000 \cdots L > 10\text{m}$	桁全数について測定する橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は JIS 認定工場の成績表に代えることができる。 JIS 製品以外は JIS 製品に準ずる。		
						断面の外形寸法 (mm)	± 5			
						橋 桁 の そ り $\delta_1(\text{mm})$	± 8			
						横方向の曲がり $\delta_2(\text{mm})$	± 10			
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	3		ポストテンションT (I) 桁製作工	幅 (上) w_1	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストressing後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 L ϕ : スパン長		
						幅 (下) w_2	± 5			
						高 さ h	+10 -5			
						桁 長 ϕL スパン長	$L < 15 \cdots \pm 10$ $L \geq 15 \cdots \pm (L-5)$ かつ -30mm 以内			
						横方向最大タワミ	$0.8\phi L$			
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	4		プレキャストセグメント桁購入工	桁 長 ϕL	-	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示 箇所にて測定。		
						断面の外形寸法 (mm)	-			
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	5		プレキャストセグメント桁組立工	桁 長 ϕL スパン長	$L < 15 \cdots \pm 10$ $L \geq 15 \cdots \pm (L-5)$ かつ -30mm 以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストressing後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 L ϕ : スパン長		
						横方向最大タワミ	$0.8\phi L$			

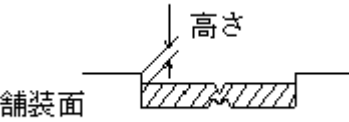
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

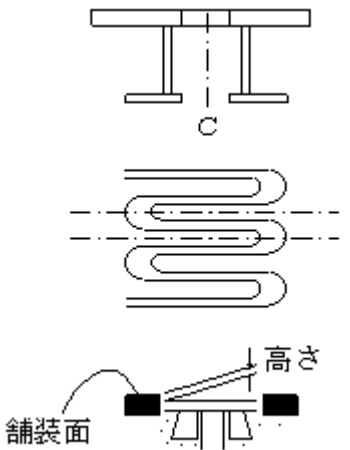
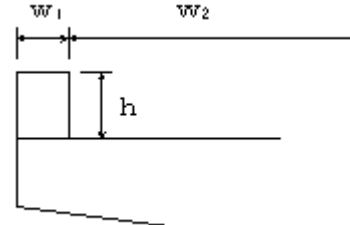
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	6		プレビ-ム桁製作工	幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 L ₀ : スパン長		
						高 さ h	+10 -5			
						桁 長 L スパン長	L<15…±10 L≥15…±(L-5) かつ -30mm 以内			
						横方向最大タワミ	0.8L			
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	7 8 9		PCホロ-スラブ製作工 RC場所打ホロ-スラブ製作工 PC版桁製作工	基 準 高	±20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所 (支点付近) で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 L ₀ : スパン長		
						幅 w ₁ , w ₂	+30~-5			
						厚 さ t	+20~-10			
						桁 長 L スパン長	L<15…±10 L≥15…±(L-5) かつ -30mm 以内			
						横方向最大タワミ	0.8L			
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	10 11		PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工	基 準 高	±20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所 (支点付近) で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 L ₀ : スパン長		
						幅 (上) w ₁	+30~-5			
						幅 (下) w ₂	+30~-5			
						内 空 幅 w ₃	±5			
						高 さ h ₁	+10 -5			
						内空高さ h ₂	+10 -5			
						桁 長 L スパン長	L<15…±10 L≥15…±(L-5) かつ -30mm 以内			
						横方向最大タワミ	0.8L			

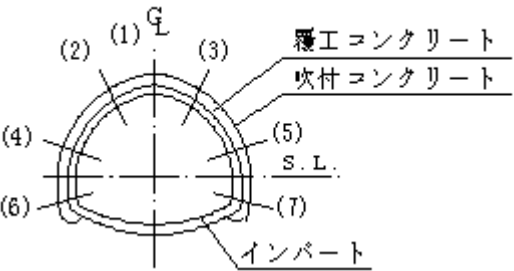
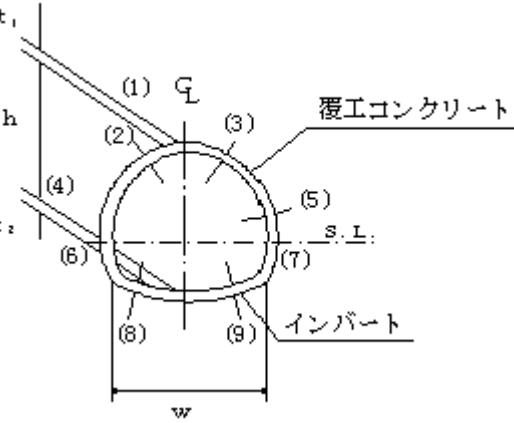
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	12		P C押し箱桁製作工	幅 (上) w_1	+30~-5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストressing後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 L_0 : スパン長		
						幅 (下) w_2	+30~-5			
						内 空 幅 w_3	±5			
						高 さ h_1	+10 -5			
						内空高さ h_2	+10 -5			
						桁 長 L スパン長	$L_0 < 15 \cdots \pm 10$ $L_0 \geq 15 \cdots$ $\pm (L_0 - 5)$ かつ -30mm 以内			
						横方向最大タワミ	0.8 L			
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工	5 コ ン ク リ ー ト 橋 架 設 工	2 3 4 5 6 7		架設工 (クレーン架設) (架設桁架設) 架設支保工 (固定) 架設支保工 (移動) (片持架設) (押し架設)	全 長・支 間	-	各桁毎に全数測定。		
						桁の中心間距離	-	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
						そ り	-	主桁を全数測定。		

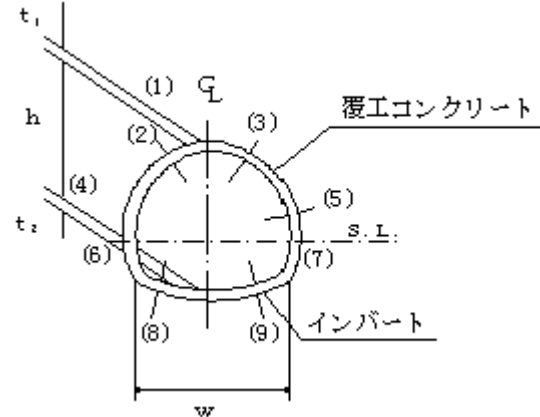
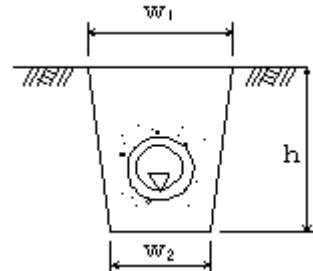
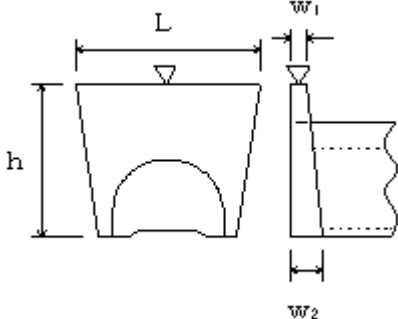
出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

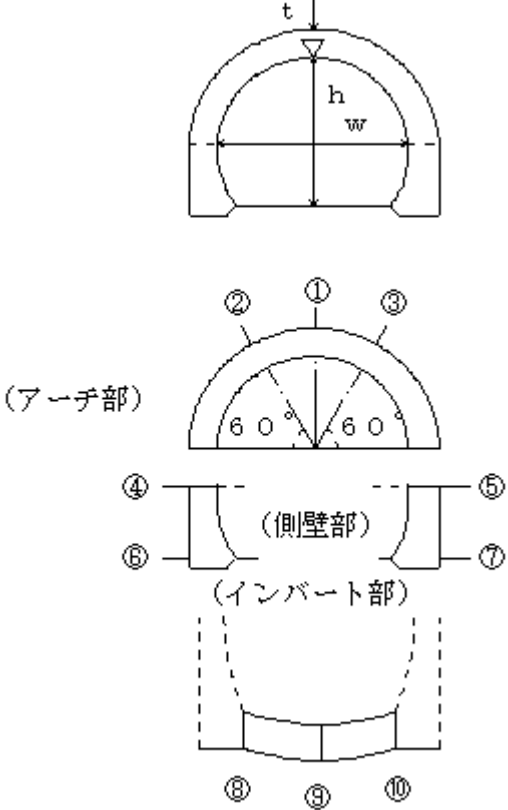
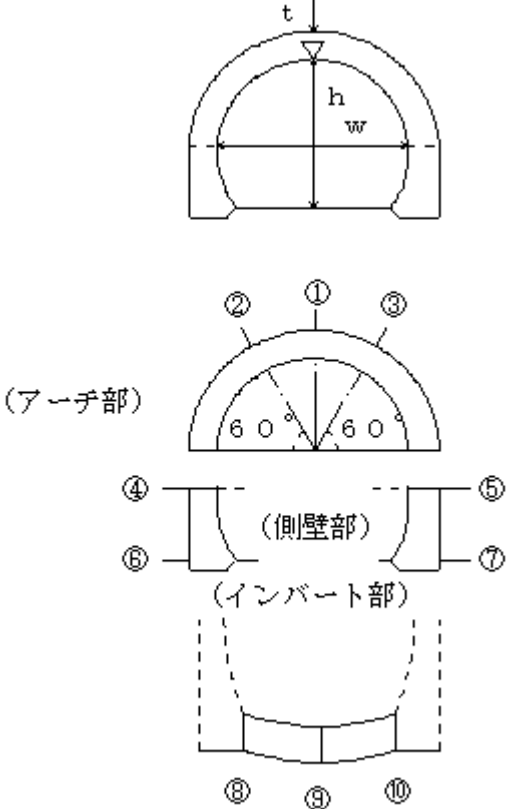
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
6 道 路 編	5 コン クリ ー ト 橋 上 部 工	6 床 版 ・ 横 組 工	2		床版・横組工	基 準 高 ▽	±20	基準高は、1 径間当たり 2 箇所 (支点付近) で、1 箇所当たり両端と中央部 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10 m ² に 1 箇所測定。(床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)			
						幅 w	±30				
						厚 さ t	+20~-10				
						鉄筋の有効高さ	±10	1 径間当たり 3 断面 (両端及び中央) 測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。			
						鉄筋のかぶり	設計値以上				
						鉄 筋 間 隔	±20	1 径間当たり 3 箇所 (両端及び中央) 測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2mの範囲を測定。			
							+10 (有効高さがマイナスの場合)				
6 道 路 編	5 コン クリ ー ト 橋 上 部 工	7 支 承 工	2	1	支承工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ	±5	支承全数を測定。			
						可動支承の橋軸 方 向 の ず れ	±10				
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5				
						下沓の水平度	橋 軸 方 向 橋軸直角方向				1/100
						同一支承線上の可動支承のずれの相 対誤差	5				
6 道 路 編	5 コン クリ ー ト 橋 上 部 工	7 支 承 工	2	2	支承工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ	±5	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。			
						支承中心間隔	±10				
						支承の水平度	橋 軸 方 向 橋軸直角方向	1／300 以下、 5mm 以下			
6 道 路 編	5 コン クリ ー ト 橋 上 部 工	8 橋 梁 付 属 物 工	2	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	塗装面に対し 0~-2	両端及び中央部付近を測定。			
						表 面 の 凹 凸	3				
						仕 上 げ 高 さ	塗装面に対し 0~-2				

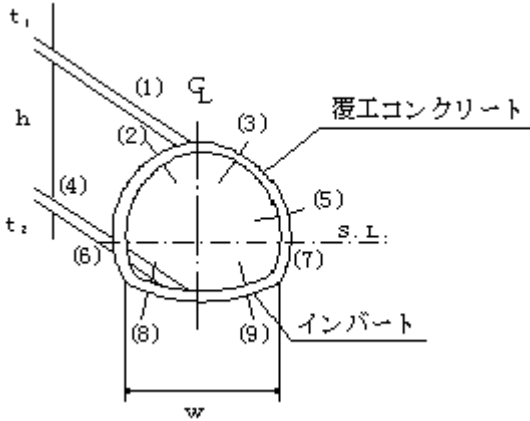
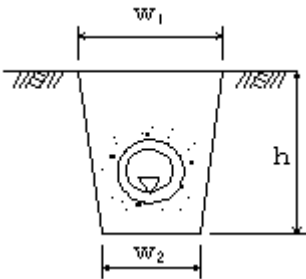


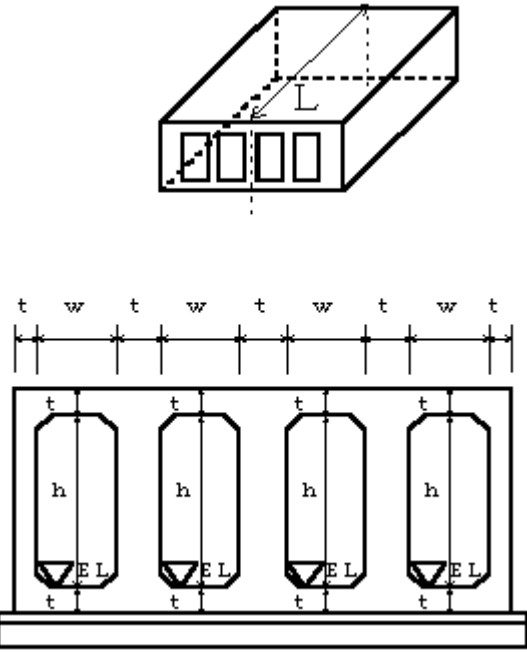
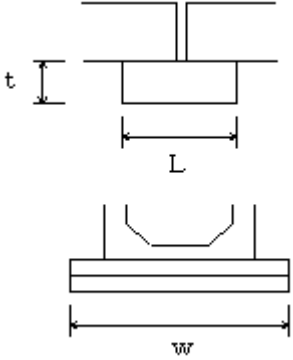
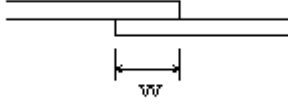
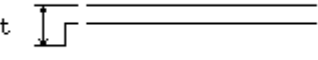
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	5 コン クリ ート 橋上 部工	8 橋梁 付属 物工	2	2	伸縮装置工 (鋼フィンガ-ジョイント)	高さ	据 付 け 高 さ	±3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隙は、両端、中央部の計3点。		
							車線方向各点 誤差の相対差	3			
							表 面 の 凹 凸	3			
							歯型板面の歯咬み 合い部の高低差	2			
							縦 方 向 間 隙	±2			
							横 方 向 間 隙	±5			
							仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し0～2			
6 道 路 編	5 コン クリ ート 橋上 部工	8 橋梁 付属 物工	5		地覆工		地覆の幅 w_1	+20～-10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
							地覆の高さ h	+20～-10			
							有効幅員 w_2	+30～0			
6 道 路 編	5 コン クリ ート 橋上 部工	8 橋梁 付属 物工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工		幅	+10～-5	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
							高 さ	±10			
6 道 路 編	5 コン クリ ート 橋上 部工	8 橋梁 付属 物工	9		現場塗装工		塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

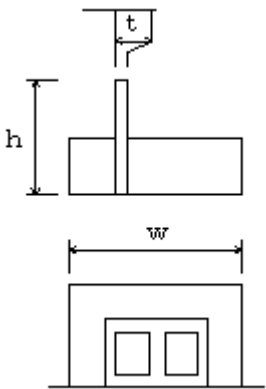
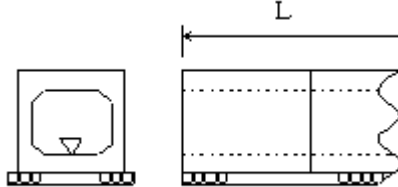
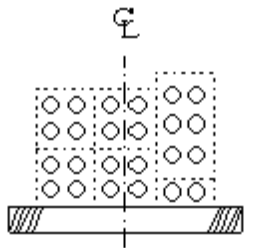
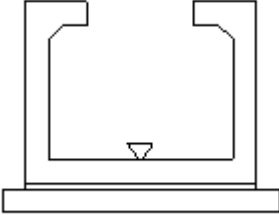
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	6 ト ン ネル (N A T M)	4 支 保 工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の 1／3 以上を確保するものとする。	施工延長 20m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準（構造編）にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。		
6 道 路 編	6 ト ン ネル (N A T M)	4 支 保 工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	-	施工延長 20m毎に断面全本数検測。		
						角 度	-			
						削 孔 深 さ	-			
						孔 径	-			
						突 出 量	プレート下面から 10cm 以内			
6 道 路 編	6 ト ン ネル (N A T M)	5 覆 工	3 4		覆工コンクリート工 側壁コンクリート工	基準高(拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は 40mに 1 箇所、(2)～(3)は 100mに 1 箇所の割合で行う。なお、トンネル延長が 100 m以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の 3 分の 1 以下のもの。なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		
						幅 w (全幅)	-50			
						高さh (内法)	-50			
						厚 さ t ₁ , t ₂	設計値以上			
						延 長 L	-			
6 道 路 編	6 ト ン ネル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						厚 さ t	-30			

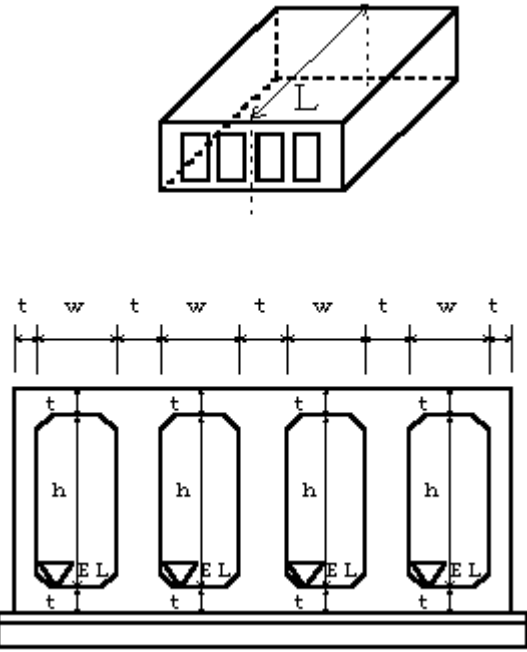
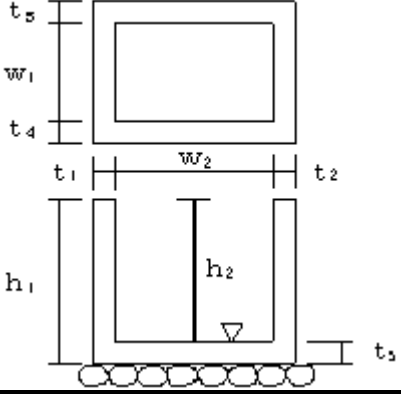
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	6 イ ン バ ー ト 工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	(1) 幅は、施工 40mにつき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面 (施工継手の位置) において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は 40mに 1 箇所、(2)～(3)は 100mに 1 箇所の割合で行う。なお、トンネル延長が 100 m以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼ア-チ支保工、ロックボルトの突出。			
						厚 さ t_1, t_2	設計値以上				
						延 長 L	-				
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	7 坑 内 付 帯 工	5		地下排水工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所。 延長 20m以下のものは 1 施工につき 2 箇所。			
						幅 W_1, W_2	-50				
						深 さ h	-30	1 施工箇所毎			
						延 長 L	-200				
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	8 坑 門 工	4		坑門本体工	基 準 高 ∇	± 50	図面の主要寸法表示箇所で測定。			
						幅 W_1, W_2	-30				
						高さ	$h < 3\text{m}$				-50
							$h \geq 3\text{m}$				-100
						延 長 L	-200				

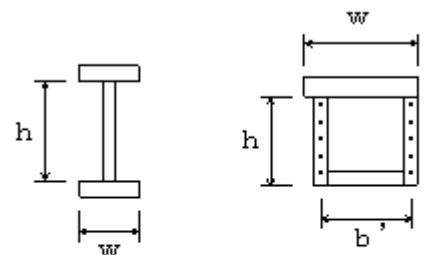
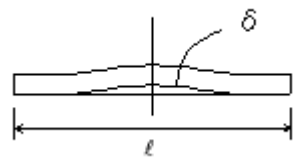
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	6 トン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	5		明り巻工	基準高(拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長 20mにつき 1 箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。		
						幅 w(全幅)	-50			
						高さh(内法)	-50			
						厚 さ t	-20			
						延 長 L	-			
6 道 路 編	7 トン ネル (矢 板)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高(拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の中間と終点を図に示す各点①～⑩で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点①～⑩の巻厚測定を行う。ただし、上部半断面先進工法の場合④～⑦については上半のセントルの間隔程度でよい。 (ハ) セン孔による巻厚の測定は図の①は 40mに 1 箇所、②～③は 100mに 1 箇所の割合で行う。なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上のセン孔による測定を行う。ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督員の指示により間隔を拡げることができる。		
						幅 w(全幅)	-70			
						高さh(内法)	-70			
						厚 さ t	-50			
						延 長 L	-			

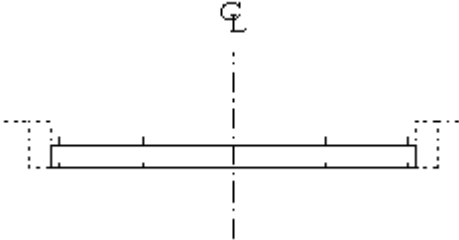
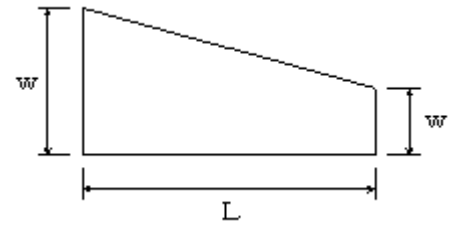
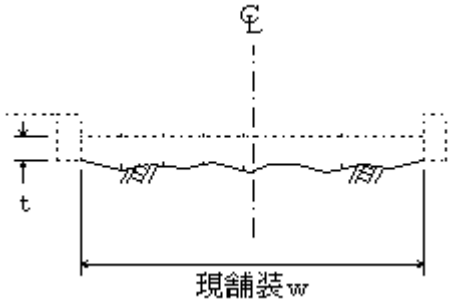
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要		
6 道 路 編	7 トンネル (矢板)	5 覆 工	4		床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。				
						厚 さ t	-30					
6 道 路 編	7 トンネル (矢板)	6 イン バ ー ト 工	3		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の中間と終点を図に示す各点(1)～(10)で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面 (施工継手の位置) において、図に示す各点(1)～(10)の巻厚測定を行う。ただし、上半断面先進工法の場合(4)～(7)については上半のセントルの間隔程度でよい。 (ハ) セン孔による巻厚の測定は図の(1)は 40mに 1 箇所、(2)～(3)は 100mに 1 箇所の割合で行う。なお、トンネル延長が 100 m以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上のセン孔による測定を行う。ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督員の指示により間隔を拡げることができる。				
						厚 さ t ₁ , t ₂	設計値以上					
						延 長 L	-					
6 道 路 編	7 トンネル (矢板)	7 坑内付帯工	4		地下排水工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所。 延長 20m以下のものは 1 施工につき 2 箇所。				
						幅 w ₁ , w ₂	-50					
						深 さ h	-30	1 施工箇所毎				
						延 長 L	-200					
6 道 路 編	10 共 同 溝	3 工 場 製 作 工	3		工場塗装工			第 1 編 3-3-15 工場塗装工に準ずる。				

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	10 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	2		現場打ち躯体工	基 準 高 ▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。		
						厚 さ t	-20			
						内 空 幅 w	-30			
						内 空 高 h	±30			
						ブロック長 L	-50			
6 道 路 編	10 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	5		カラ-継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所で測定。		
						幅 w	-20			
						長 さ L	-20			
6 道 路 編	10 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	6	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。		
6 道 路 編	10 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	6	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。		

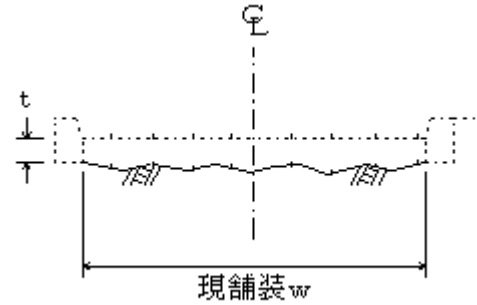
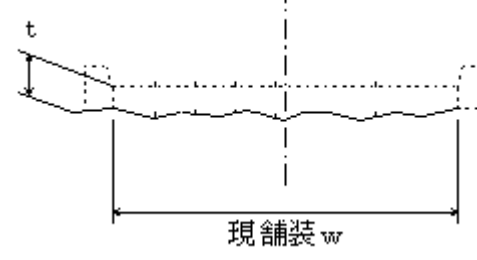
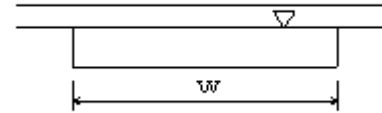
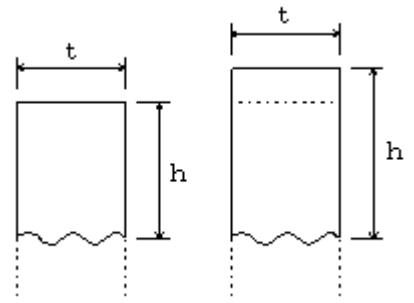
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	10 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	6	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所で測定。		
						幅 w	±50			
						厚 さ t	-20			
6 道 路 編	10 共 同 溝	6 プ レ キ ャ ス ト 構 築 工	2		プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。		
						延 長 L	-200	延長:1 施工箇所毎		
6 道 路 編	11 電 線 共 同 溝	3 電 線 共 同 溝 工	2		管路工	基 準 高 ▽	±30	接続部 (地上機器部) 間毎に 1 箇所。		
						延 長 L	-200	接続部 (地上機器部) 間毎で全数。 [管路センターで測定]		
6 道 路 編	11 電 線 共 同 溝	3 電 線 共 同 溝 工	3		プレキャストボックス工	基 準 高 ▽	±30	接続部 (地上機器部) 間毎に 1 箇所。		

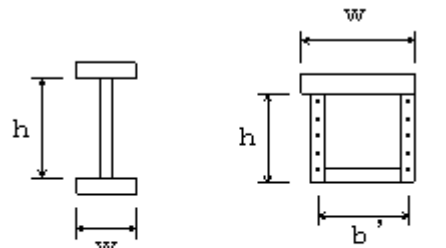
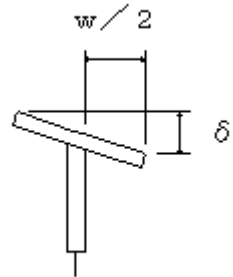
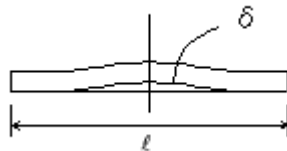
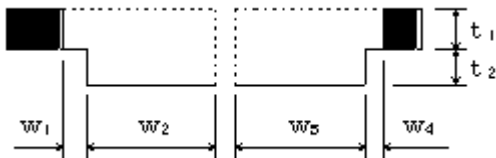
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	11 電 線 共 同 溝	3 電 線 共 同 溝 工	4		現場打ちボックス工	基 準 高 ▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ t	-20			
						内 空 幅 w	-30			
						内 空 高 h	±30			
						ブロック長 L	-50			
6 道 路 編	11 電 線 共 同 溝	4 付 帯 設 備 工	2		ハンドホル工	基 準 高 ▽	±30	1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
						※厚 さ t ₁ ～t ₅	-20			
						※幅 w ₁ , w ₂	-30			
						※高さ h ₁ , h ₂	-30			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘要
								プレートガ-タ-	トラス・ア-チ等		
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	3 工 場 製 作 工	4		桁補強材製作工	フランジ 幅 w (m) 腹 板 高 h (m) 腹 板 間 隔 b ' (m)	$\pm 2 \cdots \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \cdots 2.0 < w$	主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型プレート ガ-ター トラス弦材	
								床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。		
						圧縮材の曲がり δ (mm)	$L \alpha / 1000$		主要部材全数を測定。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X ₁₀)				
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	3		路面切削工	厚 さ t	-7	-2	厚さは 40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 20m未満の場合は、2 箇所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によることが出来る。			
						幅 w	-25	-				
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	4		舗装打換え工	路盤工	厚 さ t	該 当 工 種		各層毎 1 箇所／1 施工箇所		
							幅 w	-50				
							延長 L	-100				
						舗設工	厚 さ t	該 当 工 種				
							幅 w	-25				
							延長 L	-100				
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	5		切削オ-バ-レイ工	厚 さ t	-7	-2	厚さは 40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 20m未満の場合は、2 箇所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によることが出来る。			
						幅 w	-25	-				
						延長 L	-100					
						平 坦 性	3mプロフィールメ-タ-(σ) 2.4mm 以下直読式(足付き) (σ) 1.75mm 以下					
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	6		オ-バ-レイ工	厚 さ t	-9		厚さは 40m毎に現舗装高とオ-バ-レイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、延長 20m未満の場合は、2 箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅 w	-25					
						延長 L	-100					
						平 坦 性	3mプロフィールメ-タ-(σ) 2.4mm 以下直読式(足付き) (σ) 1.75mm 以下					

維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	7		路上再生路盤工	路 盤 工	厚さ t	-30	幅は延長 20m毎に 1 箇所の割で測定。厚さは、各車線 200m毎に左右両端及び中央の 3 点を掘り起こして測定。		
							幅 w	-50			
							延長 L	-100			
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	8		路上表層再生工	舗 設 工	厚さ t	-9	幅は延長 20m毎に 1 箇所の割で測定。厚さは、1000 m ² 毎に、現舗装高と舗設後の基準高の差を、車線中心線、車線端及びその中心とする。		
							幅 w	-25			
							延長 L	-100			
							リペ-ブの場合再生表層厚 t ₂	-9			
							平坦性	2.4			
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	9		プレキャストRC舗装版工		基 準 高 ▽	±20	施工延長 20mにつき 1 箇所、40m以下は 1 施工箇所につき 2 箇所。 なお、製品使用の場合は、製品寸法については規格証明書等による。		
							幅 w	±30			
							延 長 L	-200			
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	10		歩道舗装修繕工				第 1 編 3-6-5 アスファルト舗装工に準ずる。		
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	5 道 路 構 造 物 修 繕 工	2		排水構造物修繕工	嵩 上	厚 さ t	-20	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 取壊し寸法又は嵩上げ寸法が変化すれば、変化点毎に測定。		
							高 さ h	-30			
							延 長 L	-200			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘要
								プレートガ-タ-	トラス・ア-チ等		
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	7		鋼桁補強工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots 2.0 < w$	主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型プレート ガ-ター トラス弦材	
								床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		
						フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$	主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		
						圧縮材の曲がり δ (mm)	$L/1000$		主要部材全数を測定。		
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	8		伸縮継手修繕工 (ゴムジョイント)	厚さ t_1, t_2	-20	伸縮継手の両端部及び中央部の3箇所を測定。			
						幅 $w_1 \sim w_4$	-20				
						延長 L	設計値以上				

出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	10	1	PC橋支承修繕工・鋼桁支承修繕工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ	±5	支承全数を測定。			
						可動支承の橋軸 方 向 の ず れ	±10				
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5				
						下沓の水平度	橋 軸 方 向				1／100
							橋軸直角方向				1／100
						同一支承線上の可動支承のずれの相 対誤差	±5				
				2	PC橋支承修繕工・鋼桁支承修繕工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ	±5	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座 モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。			
						支承中心間隔	±10				
						下沓の水平度	橋 軸 方 向				1／300 以下、 5mm 以下
							橋軸直角方向				
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	7 現 場 塗 装 工	6		コンクリート面塗装工			第 1 編 3-3-16 コンクリート面の塗装に準ずる。			